

★「米史上最悪の国務長官ーポンペオはエルサレムからウソをつく」=宮田 律

「ニューヨーク・タイムズ」紙は今年5月26日付で「マイク・ポンペオは史上最悪の国務長官」と題するオピニオン記事を掲載した。日本ではあまり強調されなかったが、昨年12月6日、フロリダ州ペンサコラの海軍航空基地で銃撃事件があり、米海軍兵士3人が死亡し、8人が負傷した。犯人はサウジアラビア空軍少尉の訓練生、ムハンマド・アル・シャムラーニーで、警察に射殺された。シャムラーニー少尉は、「アラビア半島のアルカイダ（AQAP）」と関係をもっていたとされるが、ポンペオ国務長官はこの事件を防ぐことができなかった。その後もサウジアラビア軍の訓練生の中にアルカイダとつながりがある人物が特定されて国外追放された。



ポンペオ国務長官は、公務で出張中のエルサレムで収録した動画メッセージで共和党大会に参加した。公私混同という批判が上がったが、トランプ政権になって、アメリカはより安全になったことを強調した。彼は、まるでシャムラーニー少尉の事件は忘れていたかのようだ。この事件は、アメリカ本土でアルカイダによるテロが発生したという点できわめて深刻なものだろう。アメリカはテロを撲滅すると言って、2001年から対テロ戦争を行ったが、その成果がいかに虚構であるかを表すものだった。

ポンペオ国務長官は、2012年にリビア・ベンガジでアメリカ領事館が襲撃され、大使を含むアメリカ人4人が殺害されると、クリントン国務長官の職務怠慢が事件を招いたと激しく批判した人物だ。フロリダ州でのサウジ少尉による米兵殺害を彼はどう評価するのだろうか。

ポンペオ国務長官は、アメリカの福音派の利益を代弁するような人物で、アメリカの福音派はパレスチナがユダヤ人によって支配されれば、キリストの復活が早まると本気で考えている。その通りに共和党大会の演説でポンペオ国務長官はトランプ政権が「ユダヤ人の故国の正当な首都」であるエルサレムに大使館を移転したことを誇った。

共和党大会の演説の中で、彼は「イランがアメリカを威嚇した時、トランプ大統領は、イランのテロリストのガーセム・ソレイマーニー（ソレイマニ）司令官を殺害することを承認した」とも述べている。しかし、トランプ政権になってアメリカ人に実際にテロの危害を加えたのは、冒頭のシャムラーニー少尉で、本来トランプ政権が責めるべきはサウジアラビアだった。ポンペオ国務長官は、ソレイマニ司令官が数百人の米軍兵士、数千人のキリスト教徒の死傷に責任があると

も述べたが、何の根拠も示していない。ソレイマニ司令官は、I Sとの戦いで、シリアやイラクで活動していたが、イラン政府がキリスト教徒を政府の方針として殺害しようとするなどあり得ない。I Sはキリスト教徒への暴力的襲撃を繰り返していたが、それをソレイマニ司令官は実質的に抑制した。

トランプ政権はシリア政策でもトルコの軍事介入を招くなど失敗し、またサウジアラビアのムハンマド皇太子の関与が疑われるカショギ記者殺害後もサウジアラビアへの80億ドルの武器売却を承認した。とても自由世界のリーダーとは思えない行動だが、案の定、国連を通じた対イラン制裁の復活というアメリカの提案に賛同する国はほとんどなく、アメリカ外交の崩壊を招いたのは大統領とともに、嘘つきの国務長官と言えよう。

(2020年8月27日宮田 律Face Book から)